令和6年度 江戸川区立鹿本小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎考える子 ○やさしい子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	目指す学校「6年生があこがれの存在である学校」 ・一人一人のよき姿のほし、人としての基礎をつくる。 ・子供 育てる情熱と向上心をもった人（教員をつくる） ・地域のコミュニティとしての機能を果たし、地域発展の核となる。 ・夢をもち、夢をはくくみ、夢を伝え合う。
前年度までの本校の現状	成果	課題	◎基礎的・基本的な学力が定着していない児童が見られる。学習に取り組み姿勢、意欲をもって課題に取り組む態度を育てることが課題である。 ◎個別に対応しなければならない児童が多く在籍しており、それぞれの児童にどのように対応していくかを考える必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度			「中間」 自己（学校）評価(A~D)		「中間」 学校関係者評価(A~D)		「年度末」 自己（学校）評価(A~D)		「年度末」 学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント			
学力の向上	◎基礎的・基本的な学力を定着させる	◎週1回の朝学習タイムを「チャレスタ」として全校で取り組む。ミライシード、東京ベーシック・ドリルに取り組み、学習カルテで進捗を確認し、基礎・基本の定着を図る。 ◎算数授業スタンダードの徹底。 ◎水曜日4時間授業終了後15分間を基礎学力定着の時間に設定する。【マスターパンピ】 ◎学力調査分析を基に、全学年で取り組む学力向上の重点を絞ってプランを作成し、校内OJTで理解を深め、重点を日々の授業に反映させる。	◎チャレスタを年間35回以上実施する。 ◎算数授業スタンダードに基づいた授業を教員の100%が実施する。 ◎マスターパンピを年間17回実施する。 ◎10月までに授業改善プランを作成する。	B	B	B	◎チャレスタを計画通り実施し、基礎的・基本的な内容の習得を目指している。 ◎算数授業スタンダードを基にした問題解決的な学習を各教員が意識して行っている。 ◎マスターパンピを計画的に実施し、基礎学力の定着を図っている。 ◎10月までに授業改善プランの作成を計画している。	B	◎継続して繰り返し、そして定着できるようにしたい。 ◎基礎的・基本的な勉強を学ぶためにもドリルで学習することは良いことだと思ふ。マスターパンピをすることで、基礎学力が定着し、学力向上に繋がると考える。 ◎取組として実施していることとが、まだ結果・成果としては表れていない。	A	◎10月までに授業改善プランを作成できた。 ◎チャレスタを年間35回以上実施できた。 ◎算数授業スタンダードに基づいた授業を教員の100%が実施できた。 ◎マスターパンピを年間17回実施できた。 ◎合格後、カードにシールを貼ることによって、進捗が分かり、喜んで取り組むようになった。 ◎定着度調査から苦手な部分の習熟を図ったが、しっかり定着するまでには至らなかった。	A	◎言葉に実施して成果が見えるようにしてほしい。 ◎継続することが大事なことだと思ふ。 ◎自分の苦手な部分を何回も繰り返し学習することで克服することが重要である。	◎マスターパンピの時間を全校で統一し、静かに集中できる環境を作る。 ◎プリントを取りに行く時間がもたないで、次年度からはiPadのドリルパークを活用する。 ◎次年度も学力調査結果をもとに、授業改善や基礎学力の定着の定着を促す。	
	◎読書の更なる充実	◎資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の読書との関連付け、他教科との関連付け等を行っている。	◎年間35時間の読書の授業時間を確実に確保する。	◎読書の授業を計画的に実施し、時間を確実に確保している。 ◎1学期は前半に絵本を中心に読んだが、2学期後半から調べものにも挑戦していく。 ◎総合的な学習の時間や社会科と繋げて行っている。読書をするための時間は確保できているが、児童自身が本に親しむ機会が少ない。	B	B	B	◎どんな種類の本を読んでいるか、次回評議委員会の時に教えてほしい。 ◎本を読むことで、物事の本質を理解し、自己表現をすることを学習できていると思ふ。 ◎読書の充実は集中力向上につながると思ふ。強化をお願いしたい。	A	◎保護者と結果を共有して、しっかり活用してほしい。 ◎学校としての自己点検や自己評価をすることでアンケートを取ることは、子供たちがどう思っているのを知ることが大切なことであると思ふ。クラス全体のことを考え、最適な形でクラス運営を実施できている。	B	◎年間35時間の読書の授業時間を確実に確保できた。 ◎調べたことを本にまとめ、一人一人が読書完成させることができた。	B	◎読書が定着してきたように思ふ。 ◎勉強の基本は読解力が必要なので、とても良いことだと思ふ。	◎次年度も読書の時間を確保し、児童が本に親しむとともに、自己の考えをまとめ表現する力の育成を目指す。
	◎授業改善	◎学校としての自己点検や自己評価を行うとともに子どもによる授業アンケート等を活用し、積極的に改善を図っていく。 ◎授業改善推進プランや校内研修を活用し、「わかる授業」「楽しい授業」の実現を図る。	◎Hyper・QUテストを年に2回実施する。 ◎全国学力・学習状況調査の結果を基に10月までに授業改善推進プランを作成する。	◎1回目のHyper・QUテストを5月に実施済み。2回目を12月に実施予定。1回目の結果を保護者に伝え、Hyper・QUテストを個人面談で開示するとともに、学校経営の参考にしている。 ◎授業改善推進プランは作成を進めている。	B	B	B	◎保護者と結果を共有して、しっかり活用してほしい。 ◎学校としての自己点検や自己評価をすることでアンケートを取ることは、子供たちがどう思っているのを知ることが大切なことであると思ふ。クラス全体のことを考え、最適な形でクラス運営を実施できている。	A	◎Hyper・QUテストを年に2回実施できた。 ◎全国学力・学習状況調査の結果を基に10月までに授業改善推進プランを作成できた。 ◎QUテストの結果を見ながら、授業での児童への声掛けを改善することができた。	B	◎継続と改善を引き続きお願いしたい。 ◎子供たちにアンケートを取り意見を聞いて取り入れることは良いことである。	A	◎様々な調査の結果をきちんと分析して授業改善推進プランを立て、全教員が確実に実施できるようにする。	
体力の向上	◎運動意欲や基礎体力の向上	◎朝マラソン（登校時校庭3周マラソン）の全校児童一斉実施する。 ◎江戸川っ子なわ鼓チャレンジを推進する。	◎朝マラソンの参加率95%以上を目指す。 ◎江戸川っ子なわ鼓チャレンジで目標を達成する児童の割合を20%増加させる。	B	B	B	◎朝マラソンを1学期から実施。2学期にもう一度マラソンの意義を話し、意欲的に取り組んでいる。 ◎江戸川っ子なわ鼓チャレンジで1週間の縄跳び週間を実施。意欲的に取り組んだ。2学期も縄跳び週間を実施し、体力向上を目指す。	A	◎何か目的を作って継続をお願いしたい。 ◎毎日マラソンをすることで、体力向上に役立ち、良いことだと思ふ。また、縄跳びを習慣で実施することはとても良いと思ふので継続することを願う。 ◎目標を立てて頑張ることは大事。やらない子への無理強いではないフォローが必要。	B	◎朝マラソンの参加率が90%以上達成できた。 ◎マラソンについては、遅刻の児童がいたため、全員が毎日取り組めたわけではない。 ◎朝マラソンでは歩いてしまう高学年児童への対応が必要だった。 ◎江戸川っ子なわ鼓チャレンジで各児童が目標を設定し、目標に向かって活動することができた。目標を達成する児童の割合を20%増加させることができた。 ◎なわとびは年間を通して、児童が楽しんで取り組む様子が見られた。	A	◎朝マラソンは毎日の継続と目標設定でやる気をアップしていると思ふ。 ◎朝マラソンやなわ鼓などの定着を促して、体力を付けることは大切だと思ふ。このまま継続してほしい。 ◎体育科の学習で持久走を帯で取り入れ、体力向上を目指す。なわとびワークの内容やカードを工夫し、年間を通して意欲的に取り組めるようにする。	◎朝マラソンはマラソンの活用などの工夫をして、継続して取り組む。 ◎体育科の学習で持久走を帯で取り入れ、体力向上を目指す。なわとびワークの内容やカードを工夫し、年間を通して意欲的に取り組めるようにする。	
	◎運動遊びの時間の工夫・改善	◎週1回の運動遊びを通して、体力向上のきっかけをつくる。担任が運動遊びに関わることで、普段の休み時間の過ごし方を見直すとともに、集団で遊ぶ経験を積ませる。	◎運動遊びを年間30回以上実施する。	◎1学期、計画通り運動遊びを実施済み。2学期は、こじが班活動で、短縄、長縄を実施する。 ◎月初めに全体に周知し、実施することができた。運動遊びを例示し、担任も共に遊ぶことで、きっかけを作ることができている。 ◎クラスで遊びのルールを決めて行うようにしている。	B	B	B	◎先生と一緒に運動遊びを実施することで児童が楽しみながらできるようにしてほしい。 ◎体を動かすことは大切で続けてほしい。 ◎子供は遊びを通じて力を付けているよなもの、たくさん遊ばせてほしい。	B	◎運動遊びを年間30回以上実施することができた。 ◎なわとび運動遊びは、楽しんで取り組むことができた。	B	◎決められた時間内で厳しいと思ふが、運動遊びの継続をお願いしたい。 ◎担任の先生と一緒に運動をする試みは良いことだと思ふ。	B	◎次年度も、週1回のクラスあそびとして運動遊びを確実に実施し、先生と一緒に楽しみながら体を動かすようにする。	
教育の推進 社会との連携	◎学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた教員研修の実施・充実	◎巡回指導教員、特別支援教室専門員との連携を密にし、該当児童の指導改善に努めるとともに学びのユニバーサルデザインについて理解を深め、各学年での実施を推進する。	◎各学年で児童の実態を把握し、学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習に1学期から必ず取り組む。	B	B	B	◎1学期に指導主事を講師に迎え、視覚的な効果について研修を行った。各教員が研修をかし、講師に話を聞いていた内容をまとめ、デジタル教科書の活用や板書の文字の大きさ、視覚的な資料の掲示の仕方など、個に対応した指導方法を考えながら進めている。	B	◎多様性が多くなる中、色々な講師と連携して対応してほしい。 ◎色々な意見がなくすめにもいろいろな経験をすることで、自分の価値判断を正しくするためにも重要であると思ふ。 ◎子供たちの理解力向上につながると思ふ。	B	◎各学年で児童の実態を把握し、学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習に1学期から取り組むことができた。 ◎算数では少人数で実態に合わせた学習を行うことができた。担任や助産員、専門員の方と相談しながら取り組めた。	A	◎一人一人の担任で見るとは、色々な方が見ることで、今まで見ていなかったところも見えると思ふ。 ◎子供たちの意見を聞き取り、個に対応した指導を進める。		
	◎副都立鹿本学園との交流の実施・充実	◎都立鹿本学園との交流活動を充実させる。	◎都立鹿本学園との交流を学期に1回行う。	A	A	A	◎1学期、2学期に鹿本学園の児童と本校の4年生が交流を行った。12月にも交流を行う計画である。	A	◎都立鹿本学園との交流を、今後も引き続きお願いしたい。 ◎とても良い交流だと思ふので継続してほしい。 ◎定期的に実施をお願いしたい。	B	◎4年生が年に3回、交流を行った。	A	◎鹿本学園との交流はとても良いことなので引き続き継続してほしい。		
	◎地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	◎保護者によるボランティア、学校応援団を中心とした「地域ボランティア」等の組織・計画を企画、学校を支える支援体制を確立する。	◎学習ボランティアが入る授業を各クラス学期に1回以上設定する。	◎1学期は低学年の算数に学習ボランティアの方が入り、苦手な児童を中心に見ていただいた。2学期以降、他の学年にも入れるよう、計画中。	C	C	C	◎ぜひ、外部からのボランティア等を入れて授業を計画してほしい。地域の人も楽しみたい。 ◎学習ボランティアの人数が低学年の子供たちに算数を教える方法はとても良いことだと思ふ。 ◎ボランティアの高齢化問題が浮上している。今後についても検討をお願いしたい。	A	◎書き初め大会や算数の授業で学習ボランティアと学ぶ児童の姿を見かけた。 ◎学習ボランティアが入る授業を2学期と3学期に1回以上設定することができた。 ◎算数の学習で学習ボランティアや朝の読み聞かせの時間にお話パンピさんに活動していただいている。	A	◎地域の人達との連携は大事なことで思ふ。 ◎地域の方との関係は引き続きお願いしたい。	◎引き続き学習ボランティア、お話をパンピ、保護者ボランティアの方々に手伝っていただく。		
不登校・いじめ対応の充実	◎一人一人のよき姿をのび、人としての基礎をつくる	◎人権尊重の精神に基づき、いじめのない学校、学校をつくり、子供全員が毎日楽しく安心して登校できる学校をつくる。	◎いじめに関する実態調査を基に、学校指導や道徳の授業でいじめに関する学習を学期に1度は行う。	A	A	A	◎実態調査をもとに、いじめに関する指導を各学年で行っている。実態調査は6月にふれあひ月間で行い、いじめに関する学習を行った。 ◎道徳の学習で月に1度いじめに関する学習をしている。児童同士の言葉遣いにも気を配り、上下関係がないかを確認している。	A	◎いじめの事前防止、早期発見に努めているいじめのない学校を作っていくべき。 ◎今のところ、不登校の児童がいないことは先生達の努力の成果だと思ふ。 ◎定期的にいじめに関する調査や道徳の授業などを実施してほしい。	B	◎いじめに関する実態調査を基に、学校指導や道徳の授業でいじめに関する学習を学期に1度は行うことができた。	A	◎いじめに関する実態調査を基に、学校指導や道徳の授業でいじめに関する学習を学期に1度は行う。		
	◎Hyper-QUの活用	◎Hyper・QUテストを実施し、傾向や課題を学校経営に生かすとともに、生活指導夕会で情報共有する。	◎5月と12月にHyper-QUテストを実施し、学校経営に生かす。	B	B	B	◎5月に行ったHyper・QUテストを個人面談で開示するとともに、学校経営の参考にしている。	B	◎Hyper-QUの結果を参考にし、学校での生活に合わせて対応してほしい。 ◎子供たちの意見や満足度を調べて学校経営に生かすことが大切だと思ふ。 ◎何を改善して、どう変わったか、3学期にその様子について聞きたい。	B	◎5月と12月にHyper-QUテストを実施し、学校経営に生かすことができた。 ◎Hyper-QUテストの結果を見ながら、配慮が必要な児童に対しての声掛けができた。 ◎アンケートを取って意見を聞くことは良い試みである。	B	◎テストの結果で見えてきたところを参考にし、学校経営に活かしてほしい。 ◎多くの人の目で見ることによって本当の姿が見えてくると思ふ。 ◎アンケートを取って意見を聞くことは良い試みである。		
	◎いじめのない学校を目指す	◎6月、12月、2月にいじめ調査を実施して未然防止を図るとともに、案件は継続対応する。 ◎いじめが発生した場合には、いじめ防止基本方針に基づき直ぐにいじめ防止校内委員会を発定させて早期対応に当たる。	◎年3回のいじめ調査を行い、いじめ案件の100%の解決を目指す。	◎6月にいじめに関する実態調査を行った。児童がいじめと訴えた内容に関して担任が聞き取りを行い、すべての案件に関して解決済みである。いじめ調査の他にも、普段の児童観察にも努めている。	B	B	B	◎何かあったときに、児童が話しやすい環境づくりに努めてほしい。 ◎いじめ調査などを実施して未然防止に努めることはとても良いことだと思ふ。 ◎いじめがあっても言えない、言わない子中にはいると思ふ。そこは日常的に接している担任の先生が子供たちのちょっとした変化に気付いていただけてることを期待している。	B	◎3回、いじめ調査を実施し、いじめ案件の100%の解決を目指し、現在見守り中である。 ◎いじめの調査は引き続きお願いしたい。 ◎調査の後のヒアリングはしっかり実施してほしい。	A	◎年3回、いじめ調査を引き続きお願いしたい。 ◎いじめ案件の100%の解決を目指す。			
学校関係者 社会との連携	◎地域のコミュニティと連携を図る	◎児童の健全育成に向けて保護者、地域の参画を促し、学校の教育活動と目的を共有し、学校・家庭・地域の連携を図る。	◎学校便り、ホームページ等で学校の教育活動について毎月発信する。	B	B	B	◎学校便りを月に一度発行している。ホームページで公開できる情報を公開していく。デジタル配信ができるものはデジタルで配信したい。	B	◎ホームページの活用を引き続きお願いしたい。 ◎学校・家庭・地域との連携を図り、子供たちの健全育成を共に見守ることが大切なことだと思ふ。	B	◎毎月発行する学校だよりやホームページで特別活動や行事の様子を発信することができた。	B	◎なかなか学校に行けなくてもホームページで学校の様子が見られると助かる。 ◎地域との関わりを大切にすることを進めてほしい。		
	◎学校関係者評価の充実	◎年3回の学校評議会を実施し、教育課程に対する意見をいただき、地域に開かれた学校づくりを行う。	◎学校評議会を学期に1回開催し、その都度、学校の教育活動に関する意見をいただく。	B	B	B	◎学校評議会を計画通りに実施し、学校に対する意見をいただいている。いただいたご意見を真摯に受け止め、改善できるところは改善していく。	A	◎学校給食など、子供たちと同じものを食することで環境が分かるようになった。 ◎年3回の評議会を実施しているため続けることをお願いしたい。 ◎学校評議会委員会の時に授業を参観してみると、子供たちは授業に楽しく真剣に向き合っている様子である。	B	◎学校評議会委員会でいただいたご意見を真摯に受け止め、改善できるところは改善していった。	B	◎学校評議会を学期に1回開催し、その都度、学校の教育活動に関する意見をいただく。		
	◎学校（園）ホームページの充実等	◎学校行事や保護者会、学校公開、定期的に発行する諸通信、ホームページ等、教育の成果を積極的に公開し、教育活動に対する理解と協力を得る。	◎ホームページを月に1度更新する。	◎ホームページの更新は十分にできていない。今後、ホームページ等で公開できる情報を公開していく。	C	C	C	◎ホームページの更新等、大変だと思ふが、お願いしたい。 ◎いろいろな試みで開かれた学校を目指すことは必要なことだと思ふ。 ◎ホームページの更新は不定期でもよいので思ふ。見ている人もそう多くはない印象である。	B	◎行事の様子をホームページに掲載することができた。 ◎ホームページの更新が滞ってしまった。	B	◎ホームページの更新はまめにしてほしい。 ◎誰が決まった人がアップするのではなく、複数でアップすることが大切だと思ふ。	◎各学年の様子を定期的にホームページで発信する。		
教育の特色 ある	◎「学校における働き方改革プラン」	◎定時退勤日を週に1回水曜日に設定し、水曜日に定時退勤できない職員に対しては別日に定時退勤するように促す。	◎月の時間外勤務時間40時間以内を目指す。また、定時退勤日は定時退勤の教員の割合80%を目指す。	B	B	B	◎定時退勤日に定時退勤をする教員は増えている。遅くまで仕事をしている教員はほとんどいない。時間外勤務時間40時間以内の教員が増えている。二ヶ月連続で50時間の勤務時間を超える教員はいない。	A	◎日R、たさんの業務で大変だが、早く帰れる時には帰れる環境づくりに努めてほしい。 ◎先生たちの労働時間を考えて、できるだけ定時に帰れることをお願いしたい。 ◎数字だけ見ると、まだ残業が多いイメージである。大変だと思ふが、頑張っている。	A	◎月40時間以上の時間外勤務の教員はほとんどいない。働き方を調整して仕事をしている。 ◎定時退勤をすることができている。また、お互いに声をかけ合った。 ◎効率よく仕事をし、早く退勤できるようになった。	A	◎みんなで声をかけて、一人でやるのではなく分担して仕事をしてほしい。 ◎今後定時退勤をできるだけ進めてほしい。	◎月の時間外勤務時間40時間以内を目指す。また、定時退勤日は教員の80%の割合を目指す。	
	◎教員研修の実施	◎学年研修、分掌研修及び進級を工夫し、OJTを通じた育成に努める。 ◎ライフワーク、臨臨、経験等に合わせた研修に努め、教職員としての自己実現をめざす。	◎全教員年2回の授業観察及び指導助言を行う。	◎授業観察を計画通り実施し、面談の際に指導助言を行っている。 ◎教員の研修に関する情報を適宜伝え、研修を促している。 ◎放課後のOJTを充実させていきたい。お互いに授業観察ができるようになることさらに良いと思ふ。	B	B	B	◎研修や外部講師、他校の情報など、知り得たことを共有して教員の力を高める。 ◎経験の浅い先生方にいろいろな研修を経験してもらいたい。先生たち同士でコミュニケーションをとることは大切だと思ふ。 ◎先生方のスキルアップを頑張ってもらいたい。	B	◎授業観察及び指導助言を生かして授業を行った。 ◎校内研修で学んだことを生かして授業に取り組めた。	B	◎教育の質を高めるために、研修等は意義があると思ふ。 ◎きちんと誰かが評価してレベルアップしてほしい。	◎全教員年2回の授業観察及び指導助言を行う。		
	◎姉妹校との交流	◎朝陽第三小学校との交流を充実させる。	◎鶴岡市立朝陽第三小（5年生）各学期1回実施する。	◎5年生が1学期にオンラインによる交流を行った。2学期以降もオンラインでの交流ができないか検討しているところである。	B	B	B	◎朝陽第三小学校との交流は今後も続けてほしい。	B	◎5年生が1学期に互いの学校や地域の紹介をリモートで、2学期に学習発表会の発表の動画を送り交流することができた。	B	◎朝陽第三小学校との交流は今後も続けてほしい。 ◎他校や他の地域との交流は継続してほしい。	◎鶴岡市立朝陽第三小（5年生）各学期1回実施する。		